

研究課題名	75歳以上高齢者の胃癌に対する幽門側胃切除術後の再建法における後向き観察研究
研究機関名	武蔵野赤十字病院
研究責任者	所属 外科 氏名 井ノ口 幹人
研究期間	令和 2 年 6 月 ～ 令和 4 年 5 月
研究の意義・目的	胃癌に対する幽門側胃切除術後の再建法としてBillroth I (B-I) 法とRoux-Y (R-Y) 法が主に行われている。従来はB-Iがほとんどであったが近年R-Y法が増えてきている。R-Y法では胆汁の逆流は少なく、残胃炎や逆流性食道炎が少ない報告されているが、術後の合併症などに関してはB-I法と差がないことが報告されている。近年は高齢者の胃癌手術が増えているが、高齢者における再建法の比較については報告がない。高齢は食道裂孔ヘルニアのリスク因子であり逆流症状が多くなることが予想される。75歳以上高齢者におけるB-I法とR-Y法再建法について短期、長期的成績を比較検討する。
研究の方法 (対象期間含む)	武蔵野赤十字病院単独・後向き観察研究。症例群はR-Y法、対照群はB-I法とする。電子カルテで情報が得られる2011年から2018年まで当院で幽門側胃切除を行い、上記どちらかの方法で再建された患者を対象とする。主要評価項目は術後1年目、3年目の内視鏡所見の評価副次的評価項目は術後の吻合部合併症、術後1年目および3年目の血液検査（ヘモグロビン、アルブミン、ビタミンB12）、術後1年目および3年目の体重変化、術後1年目および3年目のダンピング症状の有無、術後1年目および2年目の逆流症状の有無ならびにプロトンポンプ・インヒビター使用の有無
①試料・情報の利用 目的及び利用方法 (匿名加工する場合や 他機関へ提供される場 合はその方法含む) ②利用し、又は提供す る試料・情報の項目 ③利用する者の範囲 ④試料・情報の管理 について責任を有す る者の氏名又は名称	①電子カルテから下記の情報を収集する。研究対象者には研究用IDを割り振り、氏名と研究用IDの対応表を作成する。元データからは、氏名を削除し、研究に用いる。研究期間を通して対応表ファイルはパスワードをかけ、医局2にあるパスワードロックのかかるスタンドアローンのパソコンで厳重に保管する。②患者基本情報（年齢、性別、身長、体重、併存疾患）、手術記録、術後の診察記録、術後の内視鏡検査、術前後の血液検査（ヘモグロビン、アルブミン、ビタミンB12）病理組織検査の結果（深達度、リンパ節転移、ステージ）、予後情報（生存確認日、再発確認日）③武蔵野赤十字病院・外科外来・医局内④武蔵野赤十字病院外科部長、井ノ口幹人
問合せ先	当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ 〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 外科 氏名 井ノ口 幹人 TEL : 0422-32-3111 (代表) 6812 (事務局内線) FAX : 0422-32-3525